



中部大学春日丘高校 2年SGH課題研究

—「研究論文指導」、「個別テーマ研究の知識拡大」—

課題研究論文の書き方、取り組み方を学ぶ

学習の概要

- ◆ 日時: 2016年5月7日(土)1~4時限[8:50~12:40]
- ◆ 場所: 中部大学春日丘高校2年9組教室・中部大学図書館
- ◆ 指導者: 柴田一平、加藤世詞、神谷俊一郎、伊藤孝征
- ◆ 学習のねらい:

- ① これまで行ってきた調べ学習(レポート)と研究論文の違いについて理解する。
- ② 論文の構成について学び、どのように取り組むかを学ぶ。
- ③ 研究テーマの決定。中部大学図書館にて研究テーマに関する本を読み知識を深める。

学習の流れと成果

1. レポート作成

生徒は研究領域として自分が選択した領域ごとに分かれてグループを作り、各自の研究分野に絡めて昨年度の学習内容を振り返り、原稿用紙1枚のレポートにまとめる。

2. 協働学習

- ① 作成したレポートを、グループ内で各分野の人数分コピーし配布する。
- ② 以下の手順で各グループ内において、一人ずつ自分の書いたレポートを発表する(グループの人数分行う)。発信力と批判的思考を養いながら、論文とレポートの違いを学習する。
 - (1) 各グループ一人発表者を決め、発表者のレポートをグループ内全員に配布する。
 - (2) 発表者のレポートの良い点を見つける役と改善点を見つける役をくじで決める。役のついてない生徒も発表者のレポートのコピーに気づいたこと、改善点等を書きこむ。
 - (3) 発表者は制限時間内(30秒)に自分のレポートの内容を簡潔にまとめて発表する。
 - (4) (2)で決めた役の生徒は発表後2分以内にできるだけ多く発表者のレポートの内容に対して質問、批評をする。批評の主な観点は以下の通り。
 - ・タイトルがわかりやすく、且つ内容と合致するも



のであるか。

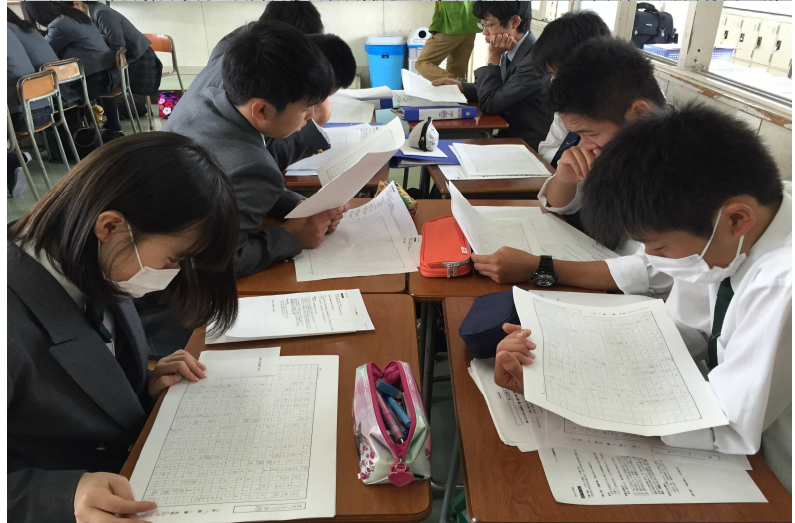
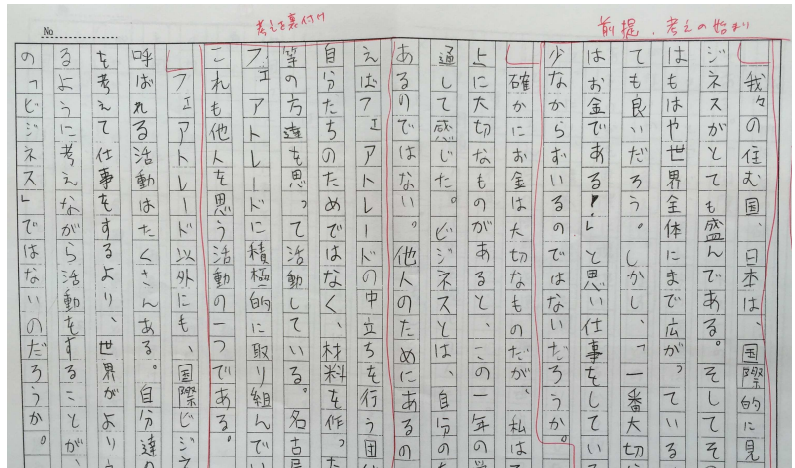
・自称を「私」、文体を常体(だ、である)としているか。

・内容に矛盾や、説得力に欠ける点がないか。

(5) 最後にグループ内全員、改善点等を書き込んだレポートを発表者に渡す。

生徒の感想

- ・議論の回数を増やすにつれて論点の着目点が明確になっていき、イメージがわいてきたのでよかった。
- ・論文の文字数を聞いて、自分に書ききれぬ不安になった。
- ・本の内容をしっかりと理解する必要があると思った。
- ・意見交換をすることで、自分の短所がよくわかった。
- ・論文は構成が大切だと分かった。
- ・友達に自分のレポートを見てもらったことが楽しかった。
- ・具体性が大切。
- ・「です」、「ます」が禁止だと知った。



3. 個別テーマの深化と論文の書き方で発見した知識の不足を補う

個別テーマの大枠が決まっている生徒は、より深い、明確なテーマに絞り込むために自分研究分野の知識を増やしていく。また、論文指導で発見した自分の知識不足を中部大学図書館において本を読んで補う。その際、前回の図書館情報収集学習で学んだ「NDCマップ」の手法を活かして効率的な書物の選出を心がける。

生徒の感想

- ・図書館で自分のテーマに合った内容の本を使って、自分のテーマについて調べるのは難しかった。
- ・情報量が多すぎてどの本を見たらいいかわからなかった。
- ・初めて知ることが多く、楽しかった。
- ・大学の図書館は高校の図書館と比べると本の種類が何倍もあってびっくりした。
- ・自分の内容にあった本を探すのに時間がかかって本の内容までじっくり読めなかった。
- ・大学の図書館に来たことで自分の調べる内容がさらに狭く、細くなり、知りたいことがはっきりと見えた気がする。

4. 全体ふりかえり

シートへの記入…各自、ふりかえりシート、ルーブリック評価表に記入し、提出。

今後

次回の授業より、本格的なゼミ形式の授業が始まる。生徒は各領域に別れ、それぞれのゼミ担当の指導に従って個別研究を進めていく。個別テーマの具体化を今月中に終了させ、それぞれの特色に沿って研究を行っていく。